

共生のための国際哲学教育プログラム担当教員

拠点リーダー

小林 康夫 現代哲学, 表象文化論 超域文化科学・教授

第1部門: 技術・情報・脳

村田 純一 科学哲学, 技術哲学, 知覚論, 心の哲学 広域科学・教授
橋本 毅彦 科学史, 技術史 広域科学・教授
信原 幸弘 心の哲学, 認知科学 広域科学・准教授
木村 忠正 文化人類学, 情報社会論 超域文化科学・准教授

第2部門: 芸術・表象・身体

田中 純 表象文化論, 建築思想, 都市論 超域文化科学・准教授
三浦 篤 西洋近代美術史, 比較芸術 超域文化科学・教授
内野 儀 表象文化論, 演劇論 超域文化科学・教授
原 和之 精神分析, フランス思想, メディア理論 超域文化科学・准教授

第3部門: アジア・近代・対話

中島 隆博 中国哲学 超域文化科学・准教授
北川 東子 哲学, 特に現代ドイツ思想
(解釈学, 身体文化論, ジェンダー論) 超域文化科学・教授
高橋 哲哉 哲学 超域文化科学・教授
市野川容孝 医療社会学, 医学史, 生命倫理 国際社会科学・准教授

第4部門: 日本文化と東アジア伝統思想

丘山 新 宗教哲学, 仏教思想, 中国仏教 東洋文化研究所・教授
黒住 真 東洋日本思想史, 倫理学, 比較宗教 地域文化研究・教授
野矢 茂樹 哲学 超域文化科学・教授
齋藤 希史 中国古典文学 超域文化科学・准教授

第5部門: 宗教と世俗化

羽田 正 比較歴史学 東洋文化研究所・教授
大貫 隆 新約聖書学, 古代キリスト教文学 地域文化研究・教授
高橋 英海 シリア学 地域文化研究・准教授

第6部門: 近代批判と古典文化

高田 康成 表象文化論 超域文化科学・教授
宮下 志朗 フランス文学, 書物の社会史 言語情報科学・教授
村松真理子 イタリア文学 地域文化研究・准教授

東京大学グローバル COE 「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 101 号館 2 階

secretary@utcp.c.u-tokyo.ac.jp

<http://www.utcp.jp/>

東京大学グローバル COE

共生のための国際哲学教育研究センター

U T The University of Tokyo
C P
Center for Philosophy



共生のための国際哲学教育プログラムについて

共生のための国際哲学教育プログラム（UTCP 教育プログラム）はグローバルな視点と専門的知識を兼ね備えた人材を養成するための大学院博士課程向けのプログラムです。UTCP 教育プログラムは東京大学の既存の研究組織の枠内だけで実施されるのではなく、国内外の研究拠点や研究者と有機的に連携しつつ実施されます。

UTCP 教育プログラム特設科目		
	科目名称	UTCP 教育プログラムにおける位置づけ
講義	共生のための国際哲学基礎論 I-VIII	先端教育プログラム
演習	共生のための国際哲学演習 I-XVI 共生のための国際哲学特別研究 I-VIII	中期教育プログラム
実験演習	共生のための国際哲学実験実習 I-VI 共生のためのリテラシー実験実習（英語） I-IV	短期教育プログラム 先端教育プログラム

(1) 短期教育プログラム

UTCP 教育プログラムを受講する大学院生は自らの関心に沿って、自らのイニシアティブによって1年間の短期教育プログラムを作成し、指導教員の助言のもと実施します。提携大学・機関の若手研究者との間でワークショップも実施されます。

(2) 中期教育プログラム

UTCP 事業推進担当者のリーダーシップのもと、海外の提携拠点と国際的に共同して2年単位で毎年4～6本のプログラムが実施されます。各中期教育プログラムはセミナーとシンポジウムから構成され、セミナーにおいては教員が相互に提携大学・機関に赴き講義等を行い、その成果を踏まえて合同のシンポジウムを適宜開催します。UTCP 教育プログラムを受講する大学院生はいずれかの部門の中期教育プログラムに所属します。

(3) 先端教育プログラム

- a 技術論, 芸術論
- b 東アジア思想, 日本思想
- c 古典文化論, イスラーム論

先端教育プログラムはグローバル化時代における「共生」思想を歴史を遡って深く探求するためのセミナーです。UTCP 事業推進担当者および外部の研究者によってオムニバス形式で実施されます。講義形式で実施され、必要に応じて参加者の発表や討論がおこなわれます。

- d 英語による口頭発表, 論文執筆の支援

教育研究成果の海外への情報発信のための主要な手段である英語の能力を洗練させるためのセミナーです。英語のネイティブ・スピーカーによって少人数で実施されます。

共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）について

グローバル COE 『共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）』は、「共生」という根本理念のもとに人類の未来を切り開く哲学的な思考を探求するために、次の二つの目標を掲げます。

21世紀 COE プログラム『共生のための国際哲学交流センター』（2002年-2007年）が形成したアジア・北米・西欧の三極の学術的国際交流をイスラーム圏を加えてさらに拡充させます。グローバル化という前代未聞の時代における「人間存在の再定義」を試みるべく、哲学的な共同研究ネットワークの拠点形成を目指します。

総合的な思考能力を有する若手研究者をあくまでも実践の場において育成する高度な教育的機能を充実させます。また、21世紀における「共生」の哲学的可能性をめぐる教育研究成果を国内外に多言語で発信します。

UTCP は基本的な教育研究単位として領域横断的な6つの部門を設けます。各部門は100名以上の国内事業推進協力者と共同で活動するだけでなく、約100名ほどの海外事業推進協力者とも連携し、世界各地の大学や研究組織と提携を結びます。

第1部門：技術・情報・脳

技術史や情報科学、脳科学など自然科学研究の最新の成果をもとに、自然と人間の関係の再編を哲学的に考察することで、現代社会の新たな倫理を提起します。

第2部門：芸術・表象・身体

美術・演劇・文学・映画などの諸芸術から精神分析に至るまで表象文化全般の包括的な理論を探究することで、人間の感性と身体の限界と可能性を批判的に考察します。

第3部門：アジア・近代・対話

西洋と東アジアの哲学的対話を通じて、近代性の問いを歴史認識や女性性の問題と関係づけながら考察することで、現代哲学を東アジアにおいて共同構築します。

第4部門：日本文化と東アジア伝統思想

仏教、儒教、道教など東アジアの諸思想の比較・検討から既存の西洋モデルの人間学をアクチュアルに掘り下げ、人間存在の新たな価値観を世界へと発信します。

第5部門：宗教と世俗化

現代世界における世俗化と世俗主義の問題を歴史的に検討し、宗教と世俗主義の関係の比較社会論的考察から、グローバル化時代における「宗教の復興」を問い直します。

第6部門：近代批判と古典文化

古典的テキストをめぐる比較文明論的考察を通じて、西欧に根をもつ「近代」概念を歴史的に解剖しつつ、その特質と限界を解明します。